

石見オロチCOREハイスクール・ネットワーク構想

現状

- ①人口が島根県東部に偏在し、西部は人口も少ない。また西部は中山間地域で、大学など高等教育機関も少ないため、高大連携が進みにくく、県内大学への進学率が低い要因の一つとなっている。
- ②学校内では教育資源も限られ、中山間地域の学校では、生徒も幼少期から同級生が変わらず視点や視野も硬直化しがちである。
- ③西部にある高校の多くが中小規模校。教員数が少なく、多様な選択科目の開講が単独では難しく、習熟度展開もしにくい。地歴科、理科教員は、専門外の科目を受けもつなど負担も大きい。
- ④西部出身の教員が少ない。教員の異動サイクルが早く、非常勤講師となる人材の確保も厳しく安定した学校経営が難しい。一方で勤務2～3校目の若手、中堅教員層が多いことも特徴である。
- ⑤各高校が設置した高校魅力化コンソーシアムは、それぞれに良さや特徴、またそれを生み出す手法等を持っているが、それを相互に共有する場や機会は多くない。各コンソーシアム間の情報交換の場が必要。

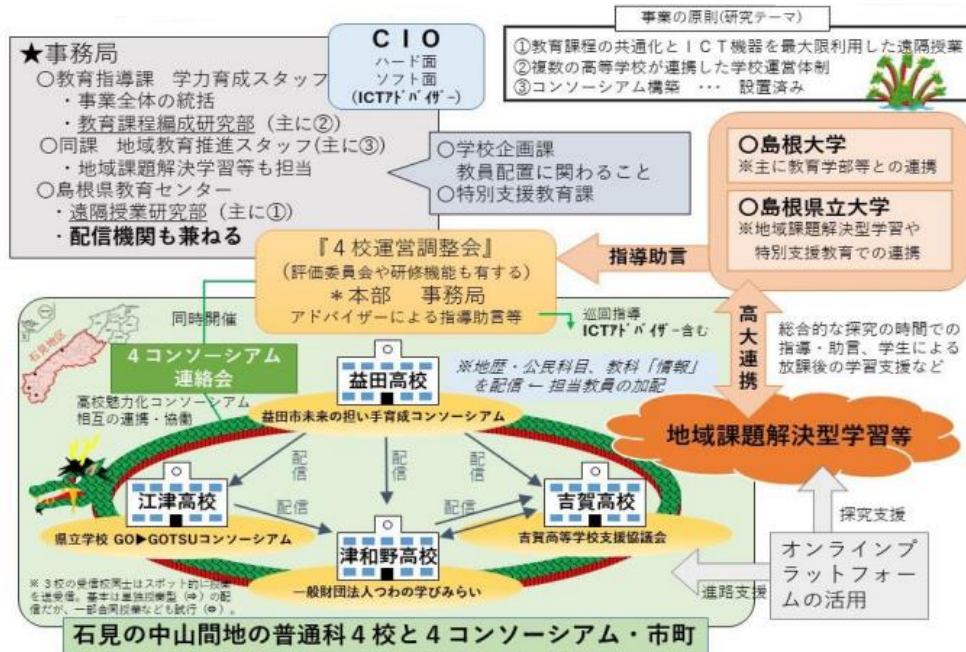
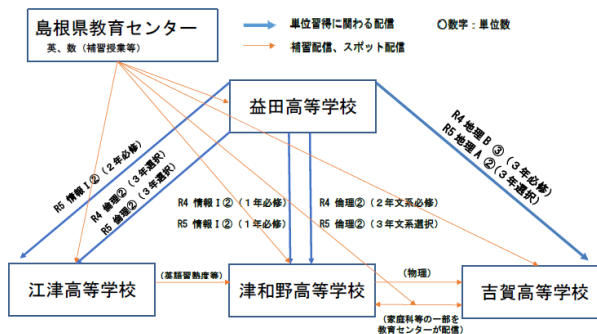
目的

～夢と絆を育むふるさと創生人の育成～

広い視野から自分の住む地域を見つめ、ふるさとに魅力を感じ、地域をよりよくしていこうとする生徒の育成を目指すとともに、自らの夢を再確認し挑戦していこうとする気持ち、オンラインによる4校間の交流や大学との連携、地域資源の最大活用を通して絆を再確認し深め広げていくことを目指す。

1. 遠隔事業に関する取組の概要

単独配信型（配信校側は生徒なし）を主とするが、兼務配置している教科では、対面授業を主としながらも、授業の一部を共同授業（配信校・受信校側双方に生徒あり）で行ったり、高校間を教員が移動せず一部授業を単独配信で行ったりする授業スタイルも試行する。



2. 地元自治体等の関係機関と連携・協働する体制の構築に関する取組の概要

総合的な探究の時間（地域課題解決型学習）を4校合同で一部実施する。これに、県教委で構築を構想している「オンラインプラットフォーム」（仮称）探究支援機能を4校で先行的に活用していく。各校のコンソーシアム相互の連携・協働を図るための「4コンソーシアム連絡会」を組織化し、4校間の交流や大学との連携、地域資源の最大活用を通してふるさと創生人の育成を図る。

3. ネットワークを構成する学校

- | | |
|---------------------|-----------------|
| 島根県立益田高等学校（普通科・理数科） | 【主に配信校】 |
| 島根県立江津高等学校（普通科） | 【主に受信校】 |
| 島根県立津和野高等学校（普通科） | 【主に受信校】 |
| 島根県立吉賀高等学校（普通科） | 【主に受信校】 |
| 島根県教育センター | 【補習授業配信、遠隔活用研修】 |

育成を目指す資質・能力



「広い視野から自分の住んでいる地域を見つめ、ふるさとに魅力を感じ、地域をよりよくしていこうとする生徒の育成」

- (1) 高大連携学力向上…大学の教官や学生の知見を得る
- (2) 地域愛の醸成…地域課題解決型学習を各校魅力化コンソーシアムと連携を図りながら充実させる
- (3) ICTリテラシー向上…ICT活用を増やす
- (4) 非認知領域(主体性、協働性、社会性、探究性)の育成…地域課題解決型学習等で自ら企画・行動する機会を増やす
- (5) 協働性の向上…自校のみならず他校を含めた活動の場面を増やす
- (6) 質の高い学びの保障による学力の向上…免許外教員の指導や未開講教科・科目を減らす

主なアウトプット(活動目標)

●研修の充実

遠隔教育・探究学習を軸としたカリキュラム・マネジメントを担う主幹教諭、授業担当者、探究学習推進担当者、魅力化コーディネーターなど、それぞれに応じた研修を実施

●探究学習の手引き作成

探究学習をリードする教職員や魅力化コーディネーターの知見や事例を集約した、「島根県版探究学習ガイドブック」を作成

●支援人材活用のためのシステム構築

探究学習の質の向上や教職員の負担軽減を目指し、校外の良質な人材を授業に活用できる「オンラインプラットフォーム」(仮称)を構築

主なアウトカム(成果目標)

●総合学力テストにより把握する生徒の学力の定着・向上の状況

総合学力テストにおける国数英の受信校3校平均偏差値の上昇率
令和2年度100.0% → 令和5年度104.0%

●免許外教科担任制度の活用件数

令和2年度5人 → 令和5年度1人

●取組を通じて育成を目指す資質・能力に関する生徒の意識変容

高校魅力化アンケートの「将来、自分のいまの住んでいる地域で働きたいと思う」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合(4校平均値)
令和2年度43.5% → 令和5年度55.0%

●遠隔授業に対する生徒の満足度の変容

遠隔授業に対する満足度アンケートから、肯定的な回答をした生徒の割合
令和2年度なし → 令和5年度80.0%

委託期間終了後の見通し

中山間地域校における免許外教科指導の是正に向け、遠隔推進教員を育成を目指す。またICTに関するセンター的機能として教育センターと連携を図り、継続的な支援環境を整備する。「オンラインプラットフォーム」(仮称)は県全体としての人材活用システムの構築を図る。